

区民参加型モニタリング調査（生きものさがし 2022） 実施報告書

1. 目的

区内に生息する生きものの現状確認や生物多様性の区民への普及啓発として実施し、今後はちよだ生物多様性推進プランの有効性（参加者数の動向等）の検証につなげていく。

2. 調査概要

a. 調査期間 令和 4（2022）年 6 月 1 日～10 月 31 日

※レポートの提出は 11 月 15 日まで

b. 調査地域 千代田区内全域

c. 参加対象者 どなたでも

d. 調査対象の生きもの

環境改善のバロメーターとなる次の生きもの

樹林・草地：モンシロチョウ・アゲハチョウ・トカゲのなかま、ススキ

水辺：トンボ・カエル・サギのなかま

その他の生きもの：セミのなかま

外来生物（2020 年から調査対象に追加）

3. 集計結果

生きものさがし 2022 では、219 名の参加者から、920 件の情報が寄せられた。これまで 5 年間の集計結果を表 1・2 で示す。

表 1 集計結果

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
参加者数（人）	243	124	169	267	219
報告数（件）	1,058	535	1,034	1,356	920

表 2 調査対象種群別報告数の集計結果

2022年順位	種名	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1	セミのなかま	298	146	318	325	202
2	トンボのなかま	203	106	166	212	167
3	アゲハチョウのなかま	141	59	130	176	127
4	モンシロチョウのなかま	94	58	93	109	70
5	カエルのなかま	58	24	37	38	52
6	サギのなかま	38	38	32	73	45
7	トカゲのなかま	34	18	67	67	39
8	ススキ	39	27	29	37	20
9	外来生物	—	—	12	38	14
	その他	153	59	150	281	184
合計		1,058	535	1,034	1,356	920

(参考) 表3 調査対象種以外で情報の寄せられた生きもの(「その他」で集計されたもの)

分類群	生きもの
哺乳類	タヌキ の1種
鳥類	オナガ、カワウ、カイツブリ、スズメ、ツバメ、カワセミ、ハヤブサ、ハクセキレイ などの14種
爬虫類	スッポン、ヤモリ、アオダイショウ、シマヘビ などの5種
昆虫類	ベニシジミ、アリ、コクワガタ、カナブン、ツマグロヒョウモン、コフキコガネ、タマムシ、カマキリ、イチモンジセセリ、オオスズメバチ、ショウリョウバッタ、オオカマキリ、キタキチョウ、カブトムシ、アメンボ、ヤマトシジミ、トノサマバッタ、スズムシ、ルリシジミ、ノコギリクワガタ、ボクトウガ、クルマバッタ、セスジツユムシ などの43種
土壌動物ほか	ミミズ、ダンゴムシ、ワラジムシ、ゲジ の4種
クモ類	ゴミグモ、ジョロウグモ などの3種
魚類	コイ の1種
水生動物	ー
植物	ハス、ヤブカンゾウ、エノコログサ の3種
その他	ヒル の1種

※「その他」で集計されたうち、種名が不明であったものについては表3に含まない。

表3では、調査対象種以外で報告が寄せられた「その他」の生きものを示した。全体では、「その他」として集計した生きものは75種におよんだ。このうち昆虫類が最も多く43種類、情報数111件である。ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミなどのチョウ類10種類23件、タマムシやカナブンなどの甲虫類14種類32件、ショウリョウバッタやスズムシなどのバッタ類7種類26件、ミツバチやスズメバチなどのハチ類4種類10件などが主な種である。

4. 位置情報

地点別の報告件数割合を示したものが図1である。生きもの情報の多かった地点は、北の丸公園で全体の26%、次いで、日比谷公園の9%であり、3位の東郷元帥記念公園は8%、4位の外濠公園は7%、5位以下の地点は、5%以下の報告件数であった。

図1 地点別の報告件数割合

